

社長所感（7月）

7月18日は海の日です。

論語に、「知者は水を楽しみ、仁者は山を楽しむ」というフレーズがありますが、昔から海を楽しむには、知恵とテクニックと経験が必要とされていたようです。

思い出話になって恐縮ですが、50年以上前の小学6年生のときに、ボーイスカウトの一員として、商船大学のヨットを使って航海のまね事をしたことがあります。

まず、「(船底の)板子一枚下は地獄、真剣に取り組まないと命に係わるぞ。」との脅しのような訓示から訓練が始まりました。

それから、手旗信号を習い、風向きに関するバイスバロットの法則によって、帆の張り方を工夫し、灯台や山の頂から三角測量によって現在の位置を割り出し…といった盛りだくさんのメニューの訓練が行われました。

仕上げに、少年たちだけでヨットを操って近くの島に渡る修了試験が行われました。

私は、揺れるヨットの上で、まごついてばかりでしたが、同級生の中には、テキパキとこなす者もいて、全体としては、それなりに様になっていたように記憶しています。

現在は、手旗信号や三角測量をわざわざ学ばなくても、それに代る高速通信技術、GPS機能、スタビライザー機能などにより、より安全で、より快適な航海が可能となっています。

このため、マリーセレスト号事件（1872年、大西洋上ポルトガル沖で、ヨットの乗組員全員が朝食中に忽然として姿を消した事件）やタイタニック号事件（映画で有名な1912年の水没事故）のような事故は、もはや、起こりようがないはずなのですが、2012年の韓国フェリーの沈没事故、2016年の中国の客船転覆事故など海難事故は後を絶ちません。

このように、海とリスクはつきもので、このリスクに対処するため、保険が始まったと言われています。

「ヴェネスの商人」で有名な海洋国家のヴェネチアでは、各商人が荷を積む船を分けて、海賊や海難事故による危険を分散していました。これは、ヴェネチアが都市国家全体として船団を出していたためにできた危険分散手法と言われています。

一方、ヴェネチアとライバル関係にあったジェノヴァでは、商人がそれぞれに自分の船を仕立てる自由競争を原則としていたため、ヴェネチア方式を採用することができず、代って、海洋保険が創設されたといわれています。

この海洋保険を創始したジェノヴァ商人、ジャンニーニは「保険とは安心を売る商売だ」という言葉を残しています。

ややこじつけとなりますが、「海の日」は、「保険の日」と言えるかも知れません。